



本当の中国が見えてくる 日本人妻の歯ざしり～中国人のおつきあい・お礼～

「お隣の庭のビワが食べごろになったなあ」と思っていたら、今年ももらってしまった。大きなボウルに一杯のビワ。庭で自然に育ったものだからか、売っているものほど大きくて甘くはないが、もういものだと思えばそれなりにおいしい。夫と二人では食べきれないので、職場にも持って行き、みんなでいただいた。

普段でも物をもろうことはよくあるのだが、悩むのはそのお返しだ。このたびのビワのお返しは、子どもさんへのお菓子にした。「子どもさんへ」と言えば、たいいてい受け取ってくれる。お隣さんが、今年もビワをくれると分かっていた訳ではないが、お返しする物が何もなく慌てたことがあるので、一応用意しておいたのだ。役に立って良かった。

実は、中国に来て戸惑ったことの中に「お礼の言い方」がある。お返しもお礼の表現だが、ことばでのお礼もなかなか意外なのだ。日本では、何かもらったら、先ずその場でお礼を言い、次回会った時に再度お礼を言うだろう。相手が目上であったり、家に招かれたりした場合は、帰宅後その日のうちに電話やメールで謝意を伝える、というのが私の中の常識だった。が、ここでは違った。中国では、お礼はその場一度だけでいいらしい。「高価な物をいただいたも？」、「手作りのお菓子さんかもらっても、おいしかったと言わなくていいの？」と思うだろう。どうやら言わなくてもいいようだ。何度もお礼を言うと、「そんなににお礼を言うなんて、まだ欲しいのかしら？」と思われてしまうようだ。私は、ただ「おいしくいただいた」ことを伝えたくて、「おいしかったです」と言っただけなのに、「あらそうだったのじゃあ、次回作ったらまたあげるわね」と、意外な顔をされたことが何度かある。「お口に合ってよかった」という簡単な返事かと思うと、思っていたので、「私、もしかしてずうずうしい人って

思われた？」と心がもやもやし、もう「おいしかった」は言わないことにした。

逆のパターンもある。私は特にお世話になった人や、手作りの料理やお菓子などをもらった時には、お礼によく巻き寿司を作る。形が崩れにくく汁気が無いから持ち運びに便利だし、日本料理の細やかさもあつた。それに、あの甘酸っぱい味はこどもも好きな人が多いのだ。が、その感想が届かない。甘すぎたならそれでもいい、巻いた具の中に嫌いなものがあつたならそれでもいい、何か反応が欲しかった！「何も無い」ということは、お口に合わなかったのね。次回は別の物をお返ししよう」と、その度に思う。他に万人受けするものが作ればいいのだが…。

そうは言っても、よく会う親しい人からはあげた物の感想はすぐ来るし、「この前のア、味どうだった？」と、くれた人から聞かれることもある。そのあたりが中国人の付き合い方で、親しさや遠慮の加減なのかもしれない。何年住んでも分からないことは多い。

お隣さんも、私が毎回お返しをしているせいで、「あの人はうちのビワが大好きなのね。毎年期待しているようだからあげない」と、思っているのかもしれない。何だか腑に落ちないが、まあ、一年に一度のお付き合いだからよしとしよう。

写真

端午節です。端午節は中国の伝統的な祝日で、先祖や自然に感謝し、邪気を払う日でもあるようです。

1. 端午節の飾りを買ってみました。飾りも年々変化し、今ではかわいい物もたくさん売られています。
2. 昔からある「よもぎ」と「菖蒲」を束ねた端午節飾りです。虫除けや厄除けの意味もあり、この時期に玄関に飾ります。うちのご近所の玄関には「粽子」というちまきを食べ



profile さねみつ じゅんこ
岡山県出身 上海市在住 家族：夫、犬1匹、猫2匹。
1989年 大学卒業後、教育・福祉関係の仕事に就く。1997年 中国人の夫と結婚。
1998年 夫の赴任で上海に引っ越し、上海済経大学で中国語を学ぶ。
2000年 日本語教師の仕事に就く。
2005年 上海同済大学大学院入学。
2008年 卒業。
2008－2011年 病気治療のため日本に帰国
2011年 上海に戻り、夫の経営する会社の工場勤務 今に至る



ます。もち米にあんこや栗（なつめ）が入った甘いもの、肉が入った甘くないもの、味はいろいろです。近年は健康志向の高まりで、甘さも控えめ、もち米ではなく雑穀米というものも出てきました。（写真左上）

4. 文中の「お隣のビワの木」です。この居住区は狭いながら各家に庭があるので、果物の木を植える人が多いようです。私が見る限り「ビワ」と「ぶどう」は一番人気。あとは「ざくろ」「柿」「みかん」…。

5. 今回いただいたビワです。熟したビワはきれい！（写真右上）

